



SCB

ニュース&トピックス

No.2024-100

(2024.11.18)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

上席主任研究員 井上 有弘

03-5202-7671

s1000790@FacetoFace.ne.jp

データで読み解くこれからの信用金庫経営 (32)
個人預金の動向

ーメイン化推進によって低コストで粘着性の高い預金基盤の確保をー

ポイント

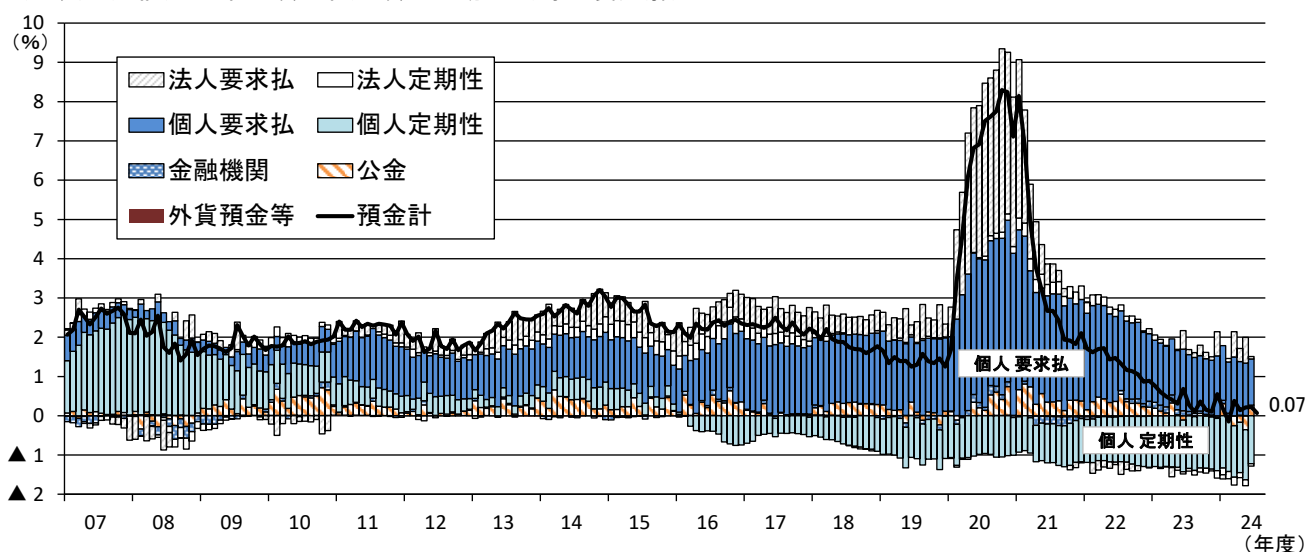
- 信用金庫預金の約4分の3を占める個人預金は、2024年7月の日銀の追加利上げ以降、定期性預金の減少率、要求払預金の増加率とも縮小傾向にあり、転換期を迎えている。
- 「金利のある世界」では、普通預金などに待機していた資金の定期預金へのシフトが予想されるが、利用者が信用金庫を評価する視点も踏まえて、金利引上げだけでなく、メイン化推進によって低コストで粘着性の高い預金基盤を確保することも求められよう。

1. 個人預金の動向

2024年10月末の全国254信用金庫の預金残高の合計は163.1兆円、前年同月比増減率は0.07%増とわずかな増加となった。預金全体の約4分の3を占める個人預金の伸びが低いことが主因である。預金全体の増減率について、個人の要求払預金と定期性預金の寄与をみると、16年2月のマイナス金利政策の導入以降は定期性預金が減少に転じ、要求払預金の増加と定期性の減少が預金全体の動きに大きく影響してきた(図表1)。

もっとも、24年7月の日銀の追加利上げ以降は、定期性預金の減少率、要求払預金の増加率とも縮小傾向にあり、低金利下で長く続いてきた傾向が転換期を迎えている。本稿では、個人の要求払預金に関して、アンケート調査等をもとに預金戦略を読み解いていく¹。

(図表1) 信用金庫の預金者別預金の動向 (寄与度分解)



(備考) 1. 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 預金合計は2024年10月末、預金者別預金は2024年9月末まで

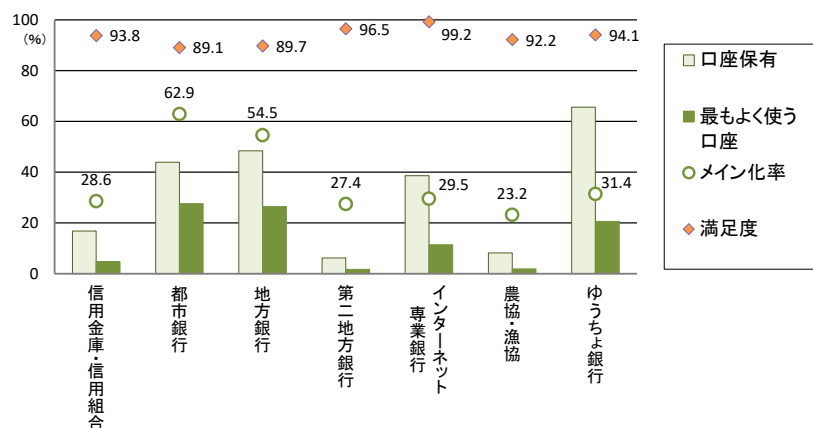
¹ 信用金庫の預金者別預金の動向については、ニュース&トピックス No.2024-98「データで読み解くこれからの信用金庫経営 (31) 最近の預金者別預金の動向」(<https://www.scbri.jp/reports/newstoppers/20241115-31-1.html>) を参照

2. 個人預金口座のメイン化

金利上昇局面では、低金利下では普通預金などに待機していた資金が定期預金へシフトすることが予想される。ただし、給与や年金の振込口座、住宅ローン・公共料金・クレジットカード等の引落口座に指定された「メイン口座」には一定の資金滞留が見込まれる。こうした「コア預金」は、調達コストが低く粘着性が高い預金基盤となりうる。

全国銀行協会では個人(一般生活者)や事業者を対象としたアンケート調査を3年毎に行っている(図表2)。2024年の調査結果によると、個人が口座を持つ金融機関としては、ゆうちょ銀行、地方銀行、都市銀行、インターネット專業銀行に次いで、信用金庫・信用組合が2割弱となっている。このうち最もよく利用する金融機関については、都市銀行、地方銀行、ゆうちょ銀行、インターネット專業銀行の順となっている。本稿ではこの調査結果をもとに、「メイン化率」(最もよく利用する金融機関の回答割合/口座を持つ金融機関の回答割合)を計算した。メイン化率は、高い順に、都市銀行、地方銀行が5割を超え、ゆうちょ銀行、インターネット銀行、信用金庫・信用組合、第二地方銀行が3割前後となっている。

(図表2) 金融機関利用者アンケートによる他業態との比較



(備考) 全国銀行協会「よりよい銀行づくりのためのアンケート」(2024年、一般生活者対象)より、信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

また、同アンケートで「最もよく使う金融機関の満足度」をみると、信用金庫・信用組合の利用者の「満足度」(「満足している」と「ある程度満足している」の合計)は、都市銀行、地方銀行をやや上回り、約94%となっている。「どのような点に満足していますか」という質問に対しては、銀行等と同様に、「ATMや店舗が多く、身近な場所にある」のほか、銀行と比較して「地域の生活に密着している」、「接客態度がよい」、「店舗の雰囲気が高く、入りやすい」を満足理由としてあげる割合が高かった。

同アンケート結果からは、信用金庫の現状のメイン化率は都市銀行や地方銀行に比べて高くはないが、実際にメイン口座として利用している顧客の満足度は高く、メイン化推進の余地があると考えられる。「金利のある世界」では、金利引上げやキャンペーンが注目されがちであるが、利用者が信用金庫を評価する視点も踏まえて、金利引上げだけでなく、メイン化推進によって低コストで粘着性の高い預金基盤を確保することも求められよう。

以上

※信用金庫業界の各種データは、信金中央金庫 地域・中小企業研究所ホームページの「信用金庫統計」(<https://www.scbri.jp/publication/toukei/>)に掲載されています。併せて、ご活用ください。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。